



小金小だより

3月号

令和6年2月29日
松戸市立小金小学校
校長 西郡 泰樹

校訓 なかよく・ただしく・たくましく



「春は名のための風の寒さや・・・。」



弥生3月を迎えます。まだ頬を伝う風は冷たいのですが、それでも少しずつ春の息吹を感じる毎日です。どんなに冬が寒くても、春は必ずやってきます。でもどうして人々はこんなに春を心待ちにするのでしょうか。冬の寒さに耐え、その辛さから解放されることに喜びはあります。喜びを体で表現すると、ぴょんぴょんと飛び跳ねる感じ。まるでスプリングのよう。そういえば英語では春のことをスプリングと言いますね。スプリングといえば温泉の意味もあります。希望がどんどん湧き出る春はもうすぐそこまで来ています。

年の初めの1月1日、能登半島を大きな地震が襲いました。被災された方々にはお見舞いを申し上げます。そして残念なことに、今なおその傷跡の多くは残されたままで、復旧もままならない状況とのことですが、一日も早く、以前のような生活ができるようになることをお祈りしております。そんな中、実際に現地に赴いたわけではありませんが、報道等でみえてきたことがあります。復旧をめざしていてもなかなか進まず、大切な土地をあとにしなければならぬ複雑な思いや、恐怖心に耐えながらも、生まれ育った土地に残ろうとする思い。大切な思い出がなくなってしまうながらも、覚悟をもって新たなスタートをきろうとしている思いもありました。何を心の支えに人はがんばってこうとするのか。それは、人それぞれの強い思いや関わり合いのある人々への思いだと思えます。家族であったり友人であったり、人々とのつながりは何ものにも変えられないものなのだと思うのです。コロナ禍で人と人との関わり方が変わったり、コミュニケーションがうまくとれなかったりするということがありましたが、しかし、今回は最後は人と人との心のつながりが大切であることを改めて思い知らされました。人に対して気遣いをする、自分よりも相手を大切にすることがいろいろな場面でみられたからです。子どもたちの元気な姿やボランティアの方々の活動が心の支えとなっていたり、地域に残ってできることをやろうとしている若者の姿だったり、がすごく大切なものなのだと思います。自分の住む地域を大切にすることは、つまり地域の人々を大切にすることなのです。

小金小学校のある小金という地域も人と人とのつながりを大切にしてきた地域です。教育活動においても地域との関わりのあるものがたくさんあります。これからもこのつながりを大切に、小金であり松戸市であり千葉県であり日本という国を大切に思える教育活動を行っていかねばいけないのだと思いました。

さて、卒業式につきましては、本年度も残念なお願いなのですが、在校生や来賓の方々にはご遠慮いただき、学校運営協議委員の方々にお越しいただくこととさせていただきます。コロナ禍から少しずつ緩和されている状況でしたので、楽しみにされていた方もいらっしゃると思います。誠に申し訳ありません。

この一年間、子どもたちはよく頑張り、たくましく成長しました。子どもたちは大きな未来です。可能性は無限大です。令和6年度に向けて、さらに大きく羽ばたいてほしいと希望します。

保護者の皆様、地域の皆様には、今年度もあたたかな目で本校の教育活動に対し、ご理解、ご協力を賜りました。心より御礼申し上げます。ありがとうございました。

教育はみんなで 校長 西郡 泰樹